

平成29年度予算見積調書

課室名：畜産安全課
 担当名：畜産振興担当
 内線：4194

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B31	豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業			一般会計	農林水産業費	畜産業費	畜産振興費	畜産経営改善対策費	
事業期間	平成28年度～	根拠法令	養豚振興法、家畜改良増殖法			挑戦項目	09	儲かる農業の推進	
	分野施策						040937	強みを生かした収益力ある農業の確立	
1 事業の概要			5 事業説明						
<p>農業技術研究センターが開発した凍結精液人工授精技術を実用化・普及し、T P Pに負けない養豚経営の競争力強化を図る。</p> <p>(1) 凍結精液量産のための機器整備事業 1,378千円 (2) 凍結人工授精技術実用化・普及事業 7,015千円</p>			<p>(1) 事業内容 T P Pの影響により想定される豚価下落に備え、養豚経営における一層のコスト削減・生産性向上が求められる。しかし、自然交配や液状精液による人工授精は、夏季の暑熱ストレスによる受胎率低下や種雄豚の多頭飼育が、生産性向上や規模拡大の妨げとなっている。そこで、農業技術研究センターが開発した凍結人工授精技術を実用化することにより生産構造の転換を図り、T P Pに負けない養豚経営の競争力強化を目指す。また、農業技術研究センターに優良種豚を導入し、優良種豚凍結精液を活用した県産ブランドを構築する。 ア 凍結精液量産のための機器整備事業 1,378千円 イ 凍結精液人工授精技術実用化・普及事業 7,015千円</p> <p>(2) 事業計画 平成28年度 凍結精液量産のための機器整備 平成28年度～ 凍結精液人工授精技術の実用化及び農家への普及・定着 平成31年 優良種豚導入</p> <p>(3) 事業効果 凍結人工授精技術を活用した繁殖コントロールにより、夏季の受胎率向上による出荷頭数増加、種雄豚削減による母豚増頭、安全な凍結精液の供給による出荷頭数の増加と戦略的な出荷が可能となり、1戸当たりの平均所得向上が期待される。</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 県養豚協会・彩の国黒豚倶楽部等と連携して、新技術の普及・指導を推進する。</p>						
2 事業主体及び負担区分 (国1/2・県1/2)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1人=9,500千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	前年との 対比
決定額	8,393	国庫支出金						4,219	8,393
前年額	0							0	